



神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク

会報第36号

KANAGAWA Rescue Support Bike Network News

2009年1月1日号, No. 36

第36号の目次

- 1、山梨、静岡ツーリングレポート
(2008. 7. 19-20) ---夏賀 英樹
- 2、2008年度無線通信訓練報告
(2008. 7. 6) ---沢田 健介

3、編集後記

山梨・静岡ツーリングレポート

2008.7.19-20

夏賀 英樹

第1日目(7/19)



朝7時30分、第一集合地点である中井PAにて大畠さんハイエース、大谷さんXR250、高橋君セロー、夏賀セローの4名の集合から今回のオフツーリングは始まった。

なお、高橋君は夏賀の仕事上での後輩であり、今回が2度目のオフツーリングである。

このPAにて簡単な朝食と、高速走行中に振動により脱落しかけた夏賀セローのウィンカー修理を完了させた後、第二集合地点である山梨県富沢町の道の駅とみざわに向かう。

途中、ガソリンと山中での昼食を補給した後、予定の15分遅れの10時45分に道の駅とみざわに到着した。



の駅とみざわに到着した。

ここでは更に静岡県在住の夏賀の従兄弟(夏賀浩策)と合流となった。彼は二十歳前には二輪免許を所得はしていたが、ここ10年以上はバイクも所有せず、ほとんど乗ることもなかったリターンライダーである。今回、彼の愛車はヤフオクで入手したシェルパである。

さて、道の駅とみざわから更に2kmほどの野営予定のキャンプ場へ移動し、林道走行の身支度を行う。またここからは、いよいよ大畠さんのハイエースからCRF1000の登場となる。



夏賀浩策君を先頭にR52を16kmほど北上し、県道808を左折、静岡/山梨県境の安部峠を目指す。途中昼食の時間を迎えたので林道傍らの草の上で各自

持参した昼食をとる。

山中の自然な涼しさと自然の音のなかでの道端での食事は、ツーリングの楽しみのひとつである。

5月GWに事前調査で閉鎖されていた安部峠のゲートも、この時期では解放されており、道路も倒木や落石が取り除かれており普通乗用車で何の問題もなく通行できる状態であった。

ここから静岡県井川湖にくだり、途中夏賀浩策君が路面の浮砂で転倒するなどした後、井川湖上の吊橋を渡り山伏峠を経由し山梨県側に戻ることにする。



山伏峠から山梨早川町の雨畑湖へ下るが、まさかと思うほど舗装化が進んでおり、ダートは舗装化工事中区間の100m程度しか残されておらず非常に残念であった。

この雨畑湖へ下る途中で、

沢田さんと清水RBの千代(センダイ)さんと大谷(清水RB)さんと合流に成功し、総勢8名の陣容となった。

雨畑湖近辺で集合写真をとるなど親交を深めた後、当日の野営場所である根熊山荘ファミリーオートキャンプ場へパーベキュー材料など調達しつつ向かう。

この時点で清水RBのお二人と分離する。この日の宿泊予定者は6名である。

夏の夜のキャンプ、ランタン、バーベキューの明かり、ビール、よもやま話など、最初は熱していた周囲も夜が深まるにつれ、沢からの涼風もあり過ごし易くなって来る。

翌朝、好天と暑さを予感させる強い日差しの中で撤収作業と次の林道の準備を行う。

出発は11時ころとなり、この時点でアスファルト路面上は40度を確実に越えていたと思われる熱射状態で、この時点で大谷さんが前日の体調不良もあり



ベース待機となる。

本日の林道走行のメンバーは大畠さん、沢田さん、高橋君

、夏賀浩策、夏賀の5名である。

今回、目指す林道は国道52と国道139にはさまれた山塊で、中心部の天子湖を形成する佐野川の周辺林道である。

路面は荒れ気味であり変化にも富んでおりまずまずといった感の林道であった。



最終地点ではスキーで例えれば上級相当の急斜面となっており、これを制覇できたのは大畠さんのみであった。

ここで協力し

あいながら車両を1台ずつ後戻りさせ、大谷さんが待機している道の駅とみざわへ戻ることにする。

最後に中華料理店で遅めの昼食を取り、今回のオフツーリングは道の駅とみざわで無事解散となった。

反省点

1. 一般林道上の浮き砂で転倒が発生したが、転倒直後に他一般車両に対する周囲警戒がなされなかった。ただし、メンバー内での巻き込み転倒もなく、その後の処置も問題なかった。
2. 想定していた訓練の幾つかが、時間配分により実施できなかった。
3. 急斜面悪路での転倒があったが、メンバー全員で協力し合いリカバリーするなど貴重な体験を得た。



左端から、夏賀、夏賀浩策君、大畠さん、高橋君、沢田さん、大谷(神奈川)さん、大谷(清水)さん、千代さん

2008年度屋外無線通信訓練報告

2008.7.6

沢田 健介

昨年に続き、今年も屋外無線通信訓練を実施しました。

日時：2008年7月6日(日) 10:00~15:30

会場：厚木市厚木相模川河川敷(あゆみ橋北西側)

天候：晴

参加者(KRB 会員名簿順)：山田、原田、古賀、夏賀、永野(靖)、永野(貴)、大谷、沢田(講師)

① 無線設備の屋外展開技術(実技)

② 無線通話手順(座学)

③ 無線通話訓練(実技)

11:10 訓練会場到着

今年の訓練会場は海拔が低く、このことは今回運用するUHF帯の電波



を使用する上で必ずしも良い条件ではなかったのだが、一方で、周囲に高い建物が建っており遠くの景色を見通すことができる好条件も揃っていた。このような立地条件における電

波伝搬条件の良し悪しは実際に無線局を設置して運用してみなくては判



らないため、期待半分心配半分の心境で訓練を開始した。

11:30 無線設備の屋外展開訓練(実技)開始

まずは昨年と同様に、発災後間も

ない被災地を想定した屋外に電源とアンテナ系を含む無線設備一式を展開し使用可能な状態にするための設営訓練を実施する。使用した設備は以下のとおり。

アンテナ：アルミ伸縮ポール(4.5m)+2バンドGPアンテナ+同軸ケーブル(50Fb×20m)

無線機：144/430MHzデュアルバンドモバイル機(アイコムIC-208)

電源：発動機付発電機(ホンダEP900H)+ガソリン携行缶(20L)+電工ドラム(24m)+スイッチング電源(アルインコDM-330V)

これら全ての設備の使用法を説明しながら設置する。アンテナ設営では支線確保のためにロープワークが有効であること、負荷の消費電力や種類に応じた発電機の選別が必要なこと、大きな電流が流れる条件で電工ドラムを使用する場合にはドラムにコードが巻かれた状態で使用すべきではないこと、燃料の運搬には携行缶が必要であることなどを説明した。

無線機は、神奈川RB情報通信分科会特製のアタッシュケース入り無線機(IC-208+DM-330V)を使用するため、電源コードと同軸ケーブルをアタッシュケースの所定のコネクタに接続するだけで運用が可能である。無

線機にアンテナから伸びてきた同軸ケーブルと発電機から伸びてきた電
工ドラムに接続した電源コードを接続して設置完了となる。



12:30 無
線通話手
順(座学)
開始
法令で
定められ
た通信手
順に従い
、且つ、
効率よく
情報を伝

送するための基礎知識、及び、アマチュア無線のコンテストに参加する
ために必要な最低限の知識と技術に関する説明を行った。まずアルファ
ベットを電話で伝送する際に有効なフォネティクス・コードの説明を行
った。我が神奈川県アマチュア無線クラブのコールサイン(JQ1YOB/1)
をフォネティクスコードを使って発音すると、Juliet Quebec
One Yankee Oscar Bravo Portable One(じゅりえっと・けべっく・わん
・やんきー・ぶらぼー・おすかー・ぽーたぶる・わん)となる。次にコン
テストの説明を行った。



アマチュア無線におけるコン
テストとは、簡単に説明
すると定められた時間内に
コンテストの参加局と交信
(コンテストナンバーと呼
ばれる情報とコールサイン
を交換する)し、より多くの

局・地域と交信することを競い合う競技のことである。今回の訓練で
はJARL(日本アマチュア無線連盟)が主催する6m & Down コンテストに参
加することで実際に多くのアマチュア局と交信し、参加者全員が交信を
実践することで技術を向上させることを目指している。以下は6m & Down
コンテストの規約(抜粋)である。



【6m & Down コン
テスト規約(抜粋)
】

開催日時：2008
年7月5日 21:00
～6日 15:00(18
時間)

使用周波数帯：

50MHz 以上のアマチュアバンド

呼出方法(電話の場合)：CQ コンテスト(またはCQ JA コンテスト)

交換するナンバー(1200MHz 帯以下の場合)：RS 符号による相手局のシ
グナルレポート+自局の運用場所を示す都道府県市長ナンバー+空中線
電力を示すアルファベット1文字

12:45 無線通話訓練(実技)開始

いよいよコンテストに参加する。コンテスト開始から既に15時間以上
が経過していたが、まだ多くの局の電波を受信することが出来た。今回
の訓練で使用した周波数は430MHz、モードはFM(電話)、送信出力は20W
である。無線従事者免許を取得後、初めての交信を果たした夏賀さん、
原田さん、永野(靖)さん、永野(貴)さんをはじめ、参加者8名全員が3
局～19局の交信を成立させた。今回初めてマイクを握った参加者からは
、「相手局のコールサインが聞き取れない」、「ロミオはLですか?Rで
すか?」、「こんなに良く聞こえているのにこちらの声が届かないのは何故
?」、「YLさんどうぞと言われたけど...?」など、多くの声や疑問が寄せら
れた。15:00 訓練終了。コンテストでは昨年を大幅に上回る得点を出すこ
とが出来た。

【コンテスト結果】

交信局数：50局

マルチ：1都8県(東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬、山
梨、静岡)

得点：450点(50局×9マルチ)



あとがき

被災地では様々な場面で無線が活用されます。警察や消防は勿論のこと、
発災直後にはアマチュア無線が救助の一助になった例もあります。また、
ボランティアセンターの活動用に特別に業務用無線が免許された
例もあります。混乱した状況下で正確な情報を伝えることは非常に難し
いことです。まして音声の品質が悪く、適切に使用しないと通話すら成
り立たない無線機を扱うためには日頃からの慣れが必要です。今回の
訓練が参加者の皆様のスキル向上に寄与し、更なる自己訓練の動機付け
になれば幸いです。

お詫びと謝辞

今回の訓練では訓練開始直前まで会場が決まらず参加者の皆様にはご
迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。訓練会場を探すご協力を
いただいた山田さんに感謝いたします。

単身生活も早や、5年。神奈川には2ヶ月に一度くらいしか帰れず、幽霊会員のようになってしまった自分ですが、メンバーの活躍を遠く見るだけで、その心に感動を覚えます。

是非、この団体がこれからも長く存続して行ってくれることを心より祈念しています。

私自身はバイクに乗るのは年に何度かというくらいになっていますが、今年は心機一転、少しバイク生活に親しみ、そしてそれを楽しもうと思っている次第です。

きっとその延長に自分にも出来ることがあるのだと思っています。

どうもありがとうございました。(お)

神奈川RB事務局

代表: 矢代幸雄、事務局長: 手塚則生

郵送先: 〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2

かながわ県民活動サポートセンターレターケース No.81

Fax: 045-312-1862(取次ぎ: レターケース No.81 宛て)

URL: <http://www.kanagawarb.org/>

バイクによる災害時救援活動支援ボランティア

神奈川・レスキューサポート・バイクネットワーク会報(年4回発行)

発行者: 神奈川RB会報担当 太田隆行

□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■□■

神奈川RB会報発行にあたりまして、お好み焼き「おにがわら」様のご支援を頂いております。みんなで行きましょう!



関西風・広島風 お好み焼き おにがわら

店主: 中島信義 山梨県北杜市大泉村 Tel: 0551-38-4030

JR小海線甲斐大泉駅北約1.5km・ダイヤモンドハケ岳ホテル前

営業日・時間 11:30~14:30、17:30~20:00(火・水・木定休)

※念のため営業を確認の上お出かけください。

<http://www.010.upp.so-net.ne.jp/onigawara/index.htm>

以下はその中島さんよりの近況です。

本年の「お好み焼き・おにがわら」の営業は11月30日で終了し恒例の冬期休業に入りました(再オープンは3月20日からです)。

早速、12月3日は地元住民と地域観光事業者25名を対象とした救護講習会を開催します。消防本部・救急救命士のご協力をいただき今年2回目の講習会を開催します。本年も学校関係の全校遠距離マラソンの救護員として4校に対しAEDをバイク、フィットに搭載して支援。無事終了しました。事故現場(交通、滑落、農作業、建築、林野火災など)への出勤も20回を越えました。自身の安全と2次災害を回避する為にもっぱら救助、救護スタッフの後方支援の在りかたを現場で、事後は出勤されたスタッフのご協力を得まして現場での後方支援活動の検証を重ねました。

処でKRB「会報35号」に報告しました「沖縄訪問記」で石垣島海保・救難隊の写真にあるヘリ「ほしずな1号」が12月1日宮古島北部海域で夜間救助訓練中海上に不時着しました。機長は写真右の立岡機長さ

んでした。ヘリはロータ下が海中に水没状態。幸いに機長他4名の隊員は無事救助されたそうです。安心しました。隊員ご家族の気持ちを思うといたたまれない気持ちで一杯です。何年、何十年と国民の生命と財産を守る為に身を挺して活動される傍ら、紙一重で生命を危険に晒す業務はもっと国民に広く賞賛されるべき事と考えます。兎に角、ヘリより隊員皆さんが無事であった事に喜びました。機長として部下の生命を無事確保した機長の力量にも最大の賛辞を送ります。この話は2日に県防災ヘリ「あかふじ」基地を訪問して懇談中にスタッフより耳にしました。自宅に戻りインターネットで琉球新報を開いて詳細を確認した次第でした。日常生活でも是非、自身の安全と愛する家族や隣人に思いやりをもって活動される事を常に祈念いたします。 2008.12.3